



## 新しい年、新しい朝

校長 中野尾 奈都江

謹んで新年のご挨拶を申し上げます  
本年も皆様のご多幸をお祈りいたします

澄み切った青空の下、「関東のお正月は、やっぱり晴れていいなあ」と感じた、穏やかな午（うま）年の始まりでした。私は子どもの頃、新潟県柏崎市の日本海の近くのに住んでいましたので、冬といえば海風と雪、そして曇天のイメージでした。高校卒業後に、埼玉に来たばかりの頃は、冬に自転車に乗ることで驚き、喜んだものです。



幼午（木目込み人形）

新春にあたり、校長室に午（うま）の小さな木目込み人形を飾りました。この手作りの木目込み人形は、私が岩槻本丸公民館での講座に参加して、初めて作った作品です。きれいな布地を、型の隙間にヘラで「きめこんで」いく作業に夢中になり、時間を忘れるほど熱中して、楽しい時間を過ごしました。可愛い作品ができて嬉しかったので、これから毎年、干支の人形を作りたいと思います。

さて、私は毎朝、太陽の光を浴びると気分がよくなります。毎日見ている太陽なのに、どうして朝の太陽はすがすがしいのでしょうか。雲があるときは、雲に朝日があたります。桃色やオレンジ色に光る雲は、本当にきれいです。ちょっと寒い空気を胸いっぱい吸って「新しい朝だ。今日も一日がんばろう。」と思います。「新しい朝が来た 希望の朝だ 喜びに胸を開け 大空あおげ」は、「ラジオ体操の歌」（作詞 藤浦洸、作曲 藤山一郎）のワンフレーズです。私は、この歌を聴くとワクワクします。子どもの頃、夏休みには、近所のお寺での町内会のラジオ体操に行きました。首からラジオ体操カードを下げて、スタンプを押してもらった思い出があります。先日、浦和の駒場体育館で「ラジオ体操指導者講習会」に初めて参加して、「ラジオ体操」の指導方法を学び、お手本となる動きを体験しました。講習会の最後に、「ラジオ体操」のベテランの方から、ラジオ体操イメージキャラクター「ラジオ体操坊や」（通称「ラタ坊」）のキーホルダーをいただきました。そのキーホルダーには、「継続は力なり 毎朝のラジオ体操」と書かっていました。昨年の春に、和土小学校の校長として着任した私にとって、昨年は、木目込み人形やラジオ体操だけでなく、新しいことに挑戦することを意識した年でした。今年は「継続は力なり」を実行したいと思っています。

朝の太陽がなぜすがすがしいのか、それは、その日の始まりの「新しい」太陽を「新鮮に感じる」からだと思います。一月は新しい年の始まりの月です。「一年の計は元旦にあり」という言葉のとおり、気持ちを新たに、自分の「やってみたいこと」「がんばりたいこと」「続けたいこと」について考え、自分を静かに見つめて行動を始める、そういう月だと思います。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、子ども達の「新しい年にあたっての決意」をぜひ温かく見守っていただき、励まし、褒めていただきたいと思います。学校でも、教職員一同、子どもたちの意欲を高め、成長を支援してまいります。